



令和5年度

# S-TOWNプロジェクトの進捗報告



ひがしひろしま  
2050ゼロカーボン



# ■Sプロジェクト

| 事業内容      | スマートハウス化の支援補助金<br>(家庭用蓄電池等の導入支援)  | 住宅用太陽光発電設備導入<br>補助金  |
|-----------|---|--|
| 事業概要      | 省エネ、創エネ推進のため蓄電池等の住宅への設備導入を支援する。   | 国の重点対策加速化事業（地域脱炭素移行・再エネ補助金）を財源とし、省エネ、創エネ推進のため太陽光発電設備の住宅への設備導入を支援する。  |
| 進捗状況      | 申請件数：蓄電池143件、エネファーム2件、V2H（電気自動車充電設備）11件<br>令和5年度は、9月中旬に予算額に達したため、申請を締め切り。 | 申請件数：12件   |
| 現時点の課題    | 燃料価格高騰による需要増や半導体不足による納品の遅れなどから変更や中止申請があった。                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度途中に始まったことから市民への周知不足であった。</li> <li>・燃料価格高騰による需要増や半導体不足による納品の遅れなどから変更や中止申請があった。</li> </ul> |
| 令和6年度の方向性 | 限られた予算の中で、最適化を図った結果、来年度予算は1,210万円に縮小。                                     | 引き続き、国重点対策加速化事業による住宅太陽光補助で、市民の脱炭素化を支援。   |
| 目指す姿      | 家庭部門で脱炭素化の取組が進み、次世代環境都市の基盤を形成する。  | 家庭部門で脱炭素化の取組が進み、次世代環境都市の基盤を形成する。   |

# ■Sプロジェクト

| 事業内容      | スマートオフィス・スマートファクトリー化相談支援事業   | 事業所用再エネ・省エネ設備導入促進補助制度   |
|-----------|--|---|
| 事業概要      | 産業部門における脱炭素を図るため、省エネに関する相談支援を行い、脱炭素化に向けた企業ニーズ等の把握を行う。                    | 国の重点対策加速化事業（地域脱炭素移行・再エネ補助金）を財源とし、省エネ、創エネ推進のため企業への設備導入を支援する。   |
| 進捗状況      | スマートオフィス・スマートファクトリー化相談支援は、省エネ診断企業19件、補助金申請は1件であった。                       | 申請件数：10件（太陽光：3件、空調：7件、照明：0件）  |
| 現時点の課題    | 相談支援開始時期と国補助の公募期間が短かったこと、国補助金申請手続きが煩雑である。                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・周知期間の確保</li> <li>・令和5年度は、申請開始当日に予算上限となり打ち切りとなった。</li> </ul> |
| 令和6年度の方向性 | スマートオフィス・スマートファクトリー化相談支援は、切れ目のない支援を行うため令和5年度末から準備し、4月から申請受付に入れる体制を整えている。 | 事業者に広く補助制度が受けられるように、上限額の引き下げをする。申請までの周知期間を十分設ける。  |
| 目指す姿      | 産業部門、業務その他部門で脱炭素化の取組が進み、次世代環境都市の基盤を形成する。                                 | 産業部門、業務その他部門で脱炭素化の取組が進み、次世代環境都市の基盤を形成する。  |



# ■Sプロジェクト

| 事業内容      | 営農型太陽光・ソーラーシェアリングの促進   | 公共施設の脱炭素化の推進<br>(省エネ・再エネ設備の導入)  |
|-----------|--|---|
| 事業概要      | 農業部門での脱炭素を促進するため、荒廃農地の活用による再エネ電源の確保を図る。  | 市有施設へ省エネ・再エネ設備の導入を行う。   |
| 進捗状況      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内でソーラーシェアリングを実施する農業従事者の圃場の見学等を通じて、その知見を深めた。</li> <li>・広島大学Town &amp; Gownミライイノベーション研究所等が検討する営農型太陽光発電について、本市も担当課が参加し、その可能性について検討している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の3地域センター（郷田・平岩・高屋東）にESCO事業による、再エネ設備導入・省エネ改修を行った。環境省補助金を活用し、太陽光（カーポート）、高効率空調（GHP）、LED照明などを設置した他、エントランスに設備の稼働状態を示したモニターを置くことで、施設利用者への啓発効果も図っている。</li> </ul> |
| 現時点の課題    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係部署と方向性の調整</li> <li>・プレイヤーの創出</li> <li>・系統接続に関する地理的課題</li> <li>・初期投資等経済的課題</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設の改修計画との調整</li> <li>・省エネ設備・再エネ設備に向けた、関係課との協議</li> </ul>   |
| 令和6年度の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当課との調整</li> <li>・市内での関係者を集めて定期的な会議を実施する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ESCOについては、令和6年度中に新たに3地域センターと、重点対策加速化事業等とも絡めて小中学校5校で実施予定。</li> </ul>   |
| 目指す姿      | 食料とエネルギーの循環モデルを構築する。   | 公共施設の脱炭素化を促進する。   |

# ■Tプロジェクト

| 事業内容      | ウェブ版環境学習センターの構築  | 「ひがしひろしまエネ・エコセミナー」の実施  |
|-----------|--|--|
| 事業概要      | 将来世代の環境学習を充実させるため、環境学習センター（Web版）を設置し、地球温暖化対策やCO <sub>2</sub> 排出量などの情報提供等を推進する。                                       | 広く市民に環境や省エネ・脱炭素に関する知識や考え方を知ってもらうため、HU-ACE、A-ESGと共同で小学校高学年以上を対象としたセミナーを実施した。              |
| 進捗状況      | 東広島スマートエネルギー株式会社HP上に環境学習センターのページを作成する方向で調整中。   | 今年度は、6月から2月にかけて計9回実施   |
| 現時点の課題    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境と親和性の高いSDGsの要素を盛り込むことや、市の環境イベント情報の案内などもできる形となるよう、ページの仕様をまとめている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナーの周知方法</li> <li>・脱炭素に向けた研究機関との協力体制</li> </ul> |
| 令和6年度の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境学習センター（Web版）の立ち上げ</li> <li>・地域の環境に関する啓発動画などのコンテンツの拡充。</li> </ul>           | 来年度も引き続き実施予定。  |
| 目指す姿      | 誰もが自由に環境情報を入手できるようにする。   | 市民が環境や省エネ・脱炭素について学ぶことができる機会の提供   |



# ■ Tプロジェクト

| 事業内容      | SDGs未来都市東広島推進<br>パートナー制度の推進                     | 地域脱炭素に関する連携協定   |
|-----------|---|---|
| 事業概要      | SDGs未来都市東広島推進パートナー制度を通じ、SDGsに対する意識醸成を図る。        | 地元企業である株式会社豊国エコソリューションズと東広島市が連携協定を締結し、民間事業者と行政が一体となって地域脱炭素化に向けた取り組みを推進する。   |
| 進捗状況      | スマートオフィス・スマートファクトリー化相談支援を通じて、新たに19企業がパートナー登録した。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内事業者を対象とした、省エネ設備導入に係る補助金セミナーを開催</li> <li>・市内事業者が脱炭素に取り組むプラットフォームの構築</li> </ul> |
| 現時点の課題    | ・パートナー企業に対して環境の側面からのアプローチ                       | ・市内事業者が脱炭素に取り組むプラットフォームの構築に関して、市内事業者の参画や市と事業者との協働に向けた取り組み   |
| 令和6年度の方向性 | パートナー企業に向けて、再エネ・省エネに関する情報等環境の側面からのアプローチを行う。     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ技術や設備導入に関する補助金等について、市内事業者への周知</li> <li>・市内事業者が脱炭素に取り組むプラットフォームの構築</li> </ul> |
| 目指す姿      | SDGsの認知が広がり、持続可能な社会を形成する。                       | 市と民間事業者が協働した脱炭素社会の形成  |

# ■0プロジェクト

| 事業内容      | ミミズプロジェクト等支援   | フードロスの削減推進と食品残渣リサイクルループの構築   |
|-----------|--|--|
| 事業概要      | <p>サーキュラーエコノミー（循環型経済）の構築に取り組む一環として、市内幼稚園・保育所や社会福祉施設にコンポストを設置し、地域で家庭等から出る生ごみをコンポストでたい肥化し、菜園や花壇等で活用し、廃棄物の資源循環と同時に、その体験を通して環境意識の醸成等を図る。</p> | <p>市内の中心市街地をフィールドとして、市内給食センターや事業所から発生する食品残渣（一般廃棄物）のたい肥化を推進する。</p>  |
| 進捗状況      | <p>令和5年度は、新たに2か所に設置し、令和3年度から引き続き実施している施設と合わせ11か所で実施。</p>   | <p>市内給食センター4か所の食品残渣を活用し104トンのたい肥化実施。<br/>（R5年度実績（R6.1末時点））<br/>事業所（5店舗）におけるたい肥化を支援しているが、更に大学内食堂を支援対象に追加。</p> |
| 現時点の課題    | <p>ミミズコンポスト設置個所の確保</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食センターの食品残渣のたい肥化における費用対効果</li> <li>・更なる食品残渣のたい肥化</li> </ul>          |
| 令和6年度の方向性 | <p>令和6年度も引き続き実施を予定しており、設置を希望する学校・保育所等に向けて、周知を図っている。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食センターでの取組みは廃止とする。</li> <li>・たい肥化に取り組む事業所の更なる拡大を図る。</li> </ul>       |
| 目指す姿      | <p>資源の有効活用のサイクルを確立し、ゼロエミッションを実現する。</p>   | <p>資源の有効活用のサイクルを確立し、ゼロエミッションを実現する。</p>   |

# Wプロジェクト

| 事業内容      | 木質バイオマス活用促進  | 市民主体の里山活用促進  |
|-----------|--|--|
| 事業概要      | 森林保全や里山再生、新たな雇用創出等の地域課題解決を目指し、木質バイオマスを地域で有効活用する仕組みを確立する。   | 市民が森林に関心を持って行う、主体的な森林整備や環境教育、ヘルスケア、獣害対策等の副次的効果を期待した新たな発想に基づく、森林資源の有効活用、空間利用を推進する。  |
| 進捗状況      | 商社と国内で取り組んでいるバイオエタノールについて、市内での精製可能性について意見交換した。             | 薪・ペレットストーブの導入支援（令和5年度は18件導入）<br>令和5年12月にエコネットひがしひろしま主催「エコ見つけ隊in寺西」を開催し、約200人が参加した。 |
| 現時点の課題    | ・木質バイオマス資源の活用促進  | ・森林資源活用の意識向上に向けた啓発   |
| 令和6年度の方向性 | ・木質バイオマス資源の活用促進  | 令和5年に引き続き森林資源活用の意識向上に向けた啓発を行う。   |
| 目指す姿      | 森林保全や里山再生、新たな雇用の創出などの地域課題解決を目指し、木質バイオマスを地域で有効活用する仕組みを確立する。 | 森林保全や里山再生、新たな雇用の創出などの地域課題解決を目指し、木質バイオマスを地域で有効活用する仕組みを確立する。                         |



# ■Nプロジェクト

| 事業内容      | 電気自動車、燃料電池車等の公用車への導入   | ブロックチェーン技術等の活用   |
|-----------|--|--|
| 事業概要      | 公用車に電気自動車、燃料電池車等を導入し、次世代自動車の普及促進を図る。                           | J-クレジットなどのカーボンオフセットや、ブロックチェーン技術を活用したCO <sub>2</sub> 排出量の削減方法を検討する。   |
| 進捗状況      | 令和5年度も、ハイブリット車の納車を計画していたが、メーカーの都合によりハイブリット車納車の目途が立たず更新ができなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックチェーン技術については、進展なし。</li> <li>・J-クレジットは、市民の太陽光発電による自家消費と、市有林の森林保全（間伐）による吸収源対策から創出する取り組みについて、それぞれ認証機関からプロジェクトの認証済み。現在モニタリングの実施により、クレジットの創出を進めている。</li> </ul> |
| 現時点の課題    | 軽トラックなどの一部の車両は、代替車両が現時点で適当な車両がないため、令和6年度以降の更新としている。            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックチェーン技術のスキーム及びプレイヤーを検討中。</li> <li>・創出したクレジットを、市内事業者に購入してもらうためのインセンティブ（仕掛け）を検討中。</li> </ul>  |
| 令和6年度の方角性 | 次世代自動車導入促進に向けて、関係課との協議を進める。                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・創出したクレジットの償却開始が令和7年度以降となるため、市内事業者に購入してもらえよう、制度周知を目的とした広報活動を行う。</li> </ul>  |
| 目指す姿      | 2030年までにすべての公用車を、次世代自動車にする。                                    | J-クレジットやブロックチェーン技術を活用して、これまで見えなかった環境配慮行動を価値化し、市内に還元することで市内のCO <sub>2</sub> 排出量を削減する。   |